

2018 年 7 月 10 日

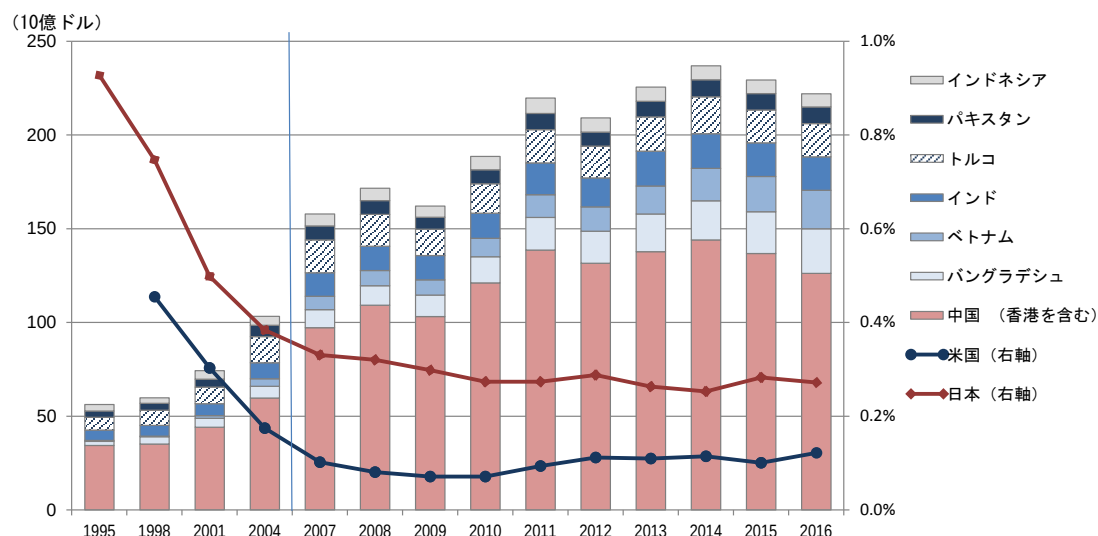
縫製業のリショアリングとその影響

労働集約型産業からの転換が進む可能性も

アジア事業開発グループ
コンサルタント 川戸 瞭

衣服は多くの途上国における主要な輸出品である。日本で販売される衣服の多くが中国製となっており、途上国から先進国（日本、米国、EU）への衣類の輸出は 2010 年代に入るまで急成長の一方だった（逆に日米両国の縫製業が GDP に占める比率は低下：図表 1）。労働集約型の縫製業では、人件費が安い国へ生産拠点を移転させる動きが進んできたためである。しかし、2010 年代より消費者ニーズの多様化に対応するため、本国へ生産拠点を戻すリショアリング（国内回帰）と呼ばれる動きが高付加価値、高価格と特徴づけられる商品を提供するアパレルメーカーで起こり始めた。これまでこの動きは限定的とされてきたが、AI や IoT など先端技術の目覚ましい進歩により先進国へのリショアリングの動きが加速するかもしれない。

（図表 1）途上国から先進国への衣服輸出額と日米における縫製業の対 GDP 推移



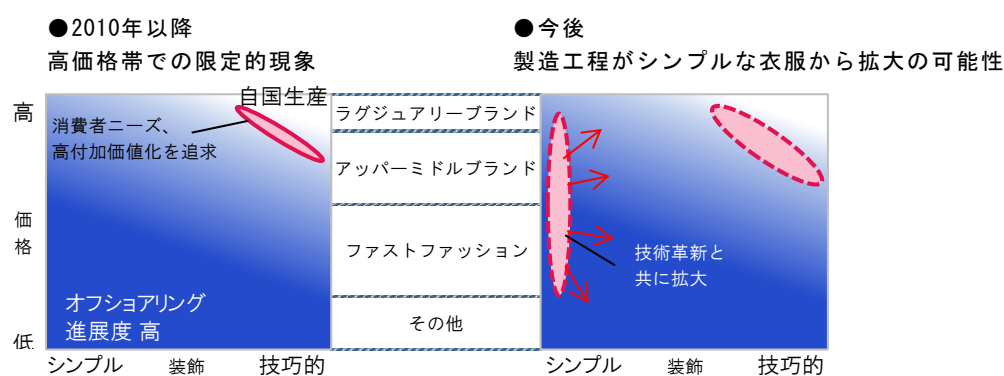
注：先進国とは日本、米国、EU を指す。ここでの途上国とは同 3 国/地域への輸出額の上位 7 途上国（凡例）の合計値を示している。なお、2016 年の先進国への衣服の輸出総額は 4,370 億ドルである。

出所：UNCTAD Stat、国民経済計算、Bureau of Economic Analysis より大和総研作成

リショアリングの動きとしては独スポーツ用品メーカーのアディダスの例が挙げられる。2015 年、同社は独バイエルン州に「スピードファクトリー」と名付けたスポーツシューズの工場を建設すると発表した。スピードファクトリーはデータ分析と先端技術により地域・個人のニーズに対応できるフレキシブルな製造ラインを有するのが特徴で、アディダスは米国、英国などでも同様のサービスを展開している¹。また、米紳士服のブルックス ブラザーズは中国、マレーシア、チリ等途上国に生産拠点を持つ一方、2007 年にマサチューセッツ州の工場を刷新して以来、米国での雇用を増やしている。現在では米国内に製造分野の従業員を 1,000 名近く雇用しており、今後も国内生産を拡大する方針を打ち出している²。英高級ファッションブランドのマルベリーも 2013 年に英サマセット州に新たな工場を建設した³。このように有名ブランドが自国の工場建設などリショアリング投資を行う例は少なくない。

中国をはじめとした途上国での顕著な人件費上昇がこれらの動きを後押ししている。今年に入っても、東南アジアではベトナム、ミャンマー、カンボジア等、縫製業が盛んな国々で最低賃金の引き上げが行われるなど、途上国での賃金上昇圧力は依然として高い。生産者にとって途上国生産でのコストメリットは縮小しつつあり、その一方で消費者近くで高付加価値な商品を素早く提供することの商機を評価し始めたメーカーがリショアリングを選択する動きを見せているのだ。

(図表 2) 縫製業でのリショアリングの動き (イメージ図)



○ リショアリング (国内回帰)

出所：大和総研作成

¹ Adidas,
<https://www.adidas-group.com/en/media/news-archive/press-releases/2015/adidas-first-speedfactory-lands-germany/>

² Brooks Brothers,
<https://www.brooksbrothers.com/Sourcing-Manufacturing/innovation-sourcing-manufacturing,default,pg.html>

³ Mulberry, <https://jp.mulberry.com/about-us/manufacturing/>

さらにここへきて、リショアリングの動きが今後拡大する可能性も出てきた。AI や IoT といった技術革新により付加価値の低い商品についてもリショアリングが合理的な選択肢となりつつあるためだ。例えば、中国のアパレルメーカー「天源服装有限公司 (Tianyuan Garments Company、本社：中国 蘇州)」は今年中に米国アーカンソー州に全自動の縫製工場を稼働させる計画を発表している⁴。新工場に導入されるソフトウェア・オートメーション社の縫製ロボット“SEWBOT”は T シャツの組立・縫製工程を無人、完全自動で可能とする優れたものだ。衣類のように柔らかい素材を正確に自動で製造するためには、機械自体が布の状態を把握する必要があると技術的に難しいとされてきたが、“SEWBOT”ラインでは T シャツ 1 枚を 22 秒で製造でき、必要人員も 17 分の 1 に削減されるという⁵。各種報道記事に拠れば、天源服装有限公司の最新工場では年間 2,300 万枚の T シャツが製造され、1 枚当たり労働コストは 33 セントに抑えられるとしている⁶。なお、“SEWBOT”は現在、T シャツやバスマット、タオルといった単純な縫製品向けとなっているが、技術進歩により次第に製造可能な商品は広がっていくだろう。

これまで労働集約型の縫製業は、賃金の高い先進国での製造はコスト面で見合わないと言われてきたが、今後は技術革新により資本集約型の色合いを強めていくのではなかろうか。もちろんその一方で、多くのアパレルメーカーが先端技術を駆使した生産に切り替えリショアリングが進んだ場合など、コストメリットで外国資本を誘致してきた途上国へのネガティブな影響は大きいだろう。ただ、コートやジャケットのように縫製工程が複雑だったり、ドレスのように装飾が施された衣類をロボット製造に委ねるまでには今暫くの時間が必要と思われる。よって現在 T シャツやジーンズといった単純な縫製を中心に手掛ける途上国では、労働者の縫製スキルを早急に強化・向上させ、複雑な工程が必要なワンピースやジャケットなど機械代替が困難な品目を多く扱う転換などが急務ではないか。さらに、政府の役割としては、先進国における AI や IoT 進展による失業者受け皿となる他産業の育成や、新時代の技術に対応する職業訓練プログラムの準備などが求められるだろう。縫製業を中核産業と位置付けている途上国にとって、残された準備時間は思いのほか短いかもしれない。

－（本文）以上－

⁴ CHINA DAILY http://usa.chinadaily.com.cn/world/2017-07/25/content_30244657.htm

⁵ SoftWear AUTOMATION <http://softwearautomation.com/products/>

⁶ Bloomberg <https://www.bloomberg.com/news/articles/2017-08-30/china-snaps-up-america-s-cheap-robot-labor>

参考文献

Adidas, “ADIDAS’ FIRST SPEEDFACTORY LANDS IN GERMANY” 2015 年 12 月 9 日

<https://www.adidas-group.com/en/media/news-archive/press-releases/2015/adidas-first-speedfactory-lands-germany/>

Bloomberg, “China Snaps Up America’ s Cheap Robot Labor” 2017 年 8 月 31 日

<https://www.bloomberg.com/news/articles/2017-08-30/china-snaps-up-america-s-cheap-robot-labor>

Brooks Brothers,

<https://www.brooksbrothers.com/Sourcing-Manufacturing/innovation-sourcing-manufacturing,default,pg.html>

CHINA DAILY, “Textile companies go high tech in Arkansas” 2017 年 7 月 25 日

http://usa.chinadaily.com.cn/world/2017-07/25/content_30244657.htm

Innovation In Textiles, “Automated Sewbot to make 800,000 adidas T-shirts daily” 2017 年 8 月 3 日

<https://www.innovationintextiles.com/automated-sewbot-to-make-800000-adidas-tshirts-daily/>

Mulberry, <https://jp.mulberry.com/about-us/manufacturing/>

SoftWear AUTOMATION, <http://softwearautomation.com/products/>